

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度4～5月号

○ 4月の概要

(1) 令和6年度4月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,928億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+5.6%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,304円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,913億円（伸び率+6.1%）、薬剤料が5,001億円（伸び率+5.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が959億円（伸び率+2.5%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,239円（伸び率▲1.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.81種類（伸び率▲0.3%）、28.0日（伸び率▲0.2%）、67円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,901億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+173億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の742億円（伸び幅+38億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+42億円（総額183億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,901億円 (+173億円)	39 その他の代謝性 医薬品(742億円)	21 循環器官用薬 (555億円)	11 中枢神経系用薬 (534億円)
0歳以上 5歳未満	20.9億円 (▲1.2億円)	44 アレルギー用薬 (6.5億円)	22 呼吸器官用薬 (4.2億円)	61 抗生物質製剤 (3.4億円)
5歳以上 15歳未満	95.5億円 (+7.7億円)	44 アレルギー用薬 (34.8億円)	11 中枢神経系用薬 (26.2億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.8億円)
15歳以上 65歳未満	1,451億円 (+75億円)	39 その他の代謝性 医薬品(276億円)	11 中枢神経系用薬 (274億円)	42 腫瘍用薬 (167億円)
65歳以上 75歳未満	820億円 (▲10億円)	39 その他の代謝性 医薬品(189億円)	42 腫瘍用薬 (144億円)	21 循環器官用薬 (132億円)
75歳以上	1,513億円 (+103億円)	39 その他の代謝性 医薬品(271億円)	21 循環器官用薬 (254億円)	42 腫瘍用薬 (200億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,304円（伸び率▲0.5%）で、最も高かったのは高知県（11,248円（伸び率▲0.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,139円（伸び率+2.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは宮崎県（伸び率+2.5%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲2.8%）であった。（→P.31～32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	85.7 %	+1.3 %
薬剤料ベース	19.2 %	▲0.5 %
後発品調剤率	79.8 %	▲0.4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.4 %	▲1.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.5 %	+15.7 % (15歳以上 20歳未満)	▲15.9 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	28.9 % (100歳以上)	11.7 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.7 %	89.8 % (100歳以上)	81.6 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	814 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (251 億円)	11 中枢神経系用薬 (140 億円)	23 消化器官用薬 (98 億円)
0歳以上 5歳未満	7.4 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	62 化学療法剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	17.8 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (11.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15歳以上 65歳未満	287 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (41 億円)
65歳以上 75歳未満	168 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	334 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (116 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,287 円	1,652 円(北海道)	1,102 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.5%	▲0.4 % (新潟県)	▲5.6 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.7 %	91.5 % (沖縄県)	82.4 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	21.7 % (鹿児島県)	16.9 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.8 %	84.4 % (沖縄県)	75.8 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.4 %	64.5 % (沖縄県)	54.7 % (東京都)

○ 5月の概要

(1) 令和6年度5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,728億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,122円（伸び率+1.3%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,873億円（伸び率+2.5%）、薬剤料が4,841億円（伸び率+3.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が914億円（伸び率+0.3%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,117円（伸び率+0.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率+0.1%）、26.9日（伸び率+1.5%）、68円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,775億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+96億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の723億円（伸び幅+33億円）で、伸び幅が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の+33億円（総額723億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,775億円 (+96億円)	39 その他の代謝性 医薬品(723億円)	21 循環器官用薬 (533億円)	11 中枢神経系用薬 (520億円)
0歳以上 5歳未満	20.7億円 (▲2.9億円)	44 アレルギー用薬 (6.0億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3億円)	61 抗生物質製剤 (3.7億円)
5歳以上 15歳未満	92.5億円 (+5.0億円)	44 アレルギー用薬 (30.5億円)	11 中枢神経系用薬 (26.5億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.9億円)
15歳以上 65歳未満	1,402億円 (+36億円)	39 その他の代謝性 医薬品(269億円)	11 中枢神経系用薬 (267億円)	42 腫瘍用薬 (167億円)
65歳以上 75歳未満	790億円 (▲21億円)	39 その他の代謝性 医薬品(182億円)	42 腫瘍用薬 (142億円)	21 循環器官用薬 (125億円)
75歳以上	1,469億円 (+79億円)	39 その他の代謝性 医薬品(264億円)	21 循環器官用薬 (246億円)	42 腫瘍用薬 (202億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,122円（伸び率+1.3%）で、最も高かったのは高知県（11,018円（伸び率+1.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,864円（伸び率+1.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+5.2%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲0.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	85.8 %	+1.4 %
薬剤料ベース	18.9 %	▲0.6 %
後発品調剤率	79.7 %	▲0.5 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.3 %	▲1.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.3 %	+11.4 % (10歳以上 15歳未満)	▲22.1 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9 %	28.7 % (100歳以上)	11.4 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.8 %	89.7 % (100歳以上)	82.5 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	775 億円 (▲3 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	11 中枢神経系用薬 (136 億円)	23 消化器官用薬 (94 億円)
0歳以上 5歳未満	7.2 億円 (▲2.2 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	16.1 億円 (▲0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15歳以上 65歳未満	271 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (63 億円)	44 アレルギー用薬 (32 億円)
65歳以上 75歳未満	159 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (61 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75歳以上	322 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (112 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,239 円	1,596 円(北海道)	1,061 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.6%	+1.3 % (愛媛県)	▲4.5 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.8 %	91.6 % (沖縄県)	82.5 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9 %	21.5 % (鹿児島県)	16.7 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.7 %	84.9 % (沖縄県)	75.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.3 %	64.6 % (沖縄県)	54.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度4月及び5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。